

## 令和5年度 大住保育園 自己評価

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図る為、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない」ことが明記されています。大住保育園の今年度の自己評価の結果を踏まえ、よりよい教育・保育に向けた改善や充実に取り組んでまいります。

### 評価結果の表示方法

1. よくできている 2. まあまあできている 3. あまりできていない 4. まったくできていない

自己評価項目	1. 2. 3. 4 評価	評価内容
保育の計画性	1	子どもの年齢、発達、興味に合わせ、指導計画をたて、毎月幼児クラス、乳児クラスで評価・反省をし、次の月の保育に生かせるようにしている。
保育のあり方、こどもへの対応	1	子どもとの温かなやりとりやスキンシップを心がけありのままを受け入れる姿勢で保育を行っている。
保育者としての資質向上、専門性に関する研修、研究への意欲	2	外部の研修や園内研修を受け、教育・保育に関する情報を日頃から積極的に得ようとしている。
保護者への対応	2	アンケートや懇談、おたより帳や送迎時等に保護者の要望を聞き、子どもにとってよりよい環境を作るように努力している。
地域の自然や社会との関わり	2	なかよしフェスタでは、地域の方々や卒園児と交流し花の日の交番訪問や、老人福祉施設九十九園への慰問を再開した。

### 来年の目標

- ・異年齢交流の取り組みの充実

異年齢交流とは、年齢別のクラスの枠を越え共に学び合い成長していくこと。

年少者は年上の活動を見て憧れを持ち、年長者は年下の世話を通し自分に自信を持つ。

これらを通し協調性や社会性を育む。少子化の中、近所の子同士で遊ぶケースも少なくなり保育園が初めての集団生活の場となり、様々な能力を育む大切な場となる。

- ・保護者とのコミュニケーションをもっと積極的にとり、子育ての悩みや相談が気軽に出来るより良い関係を築き、子どもたちの成長・発達について今以上に共有していく。